

2015年11月21日(土)13:00~16:00名城大学天白キャンパス共通講義棟南S-301教室にて、日本建築学会東海支部および名城大学・NDRR共催の特別講演会が実施された。研究者・技術者63名、学生203名(内、名城大学生182名)の合計266名が参加する盛況な講演会となった。

最初に日本建築学会(以下AIJ)東海支部支部長の市之瀬敏勝先生より開会の挨拶がなされ、引き続きAIJ東海支部構造委員長・NDRR副代表の武藤厚先生より主旨の説明がなされた。

講演部分はコンクリートシェル、木質系空間構造、デジタルファブリケーションの3部門に分かれ、コンクリート系シェルでは小松宏年先生(小松宏年構造設計事務所)、高見澤孝志先生(ハシゴタカ建築設計事務所)、木質系空間構造では金田充弘先生(アラップ)、岩本聡先生(戸田建設)・北川昌尚先生(竹中工務店)に、いずれも最新の設計技術と施工技術を盛り込んだ話題の空間構造の事例についてご講演を頂いた。またデジタルファブリケーションでは横山将基先生(TAB)・山下健先生(TAB)に、屋外のアート作品の設計・製作事例についてご講演頂いた。

ミニPDでは前述の市之瀬先生・武藤先生・ご講演者に加えて、元AIJシェル空間構造運営委員会主査の加藤史郎先生と大森博司先生、JSCA中部支部長の二宮利治先生にも加わっていただき、あえて工業化しないなど設計を進める上で重視した考え方、RCシェル構造の将来展望、RC構造物の耐震性・耐久性、構造合理性に関する捉え方等についてご議論頂き、最後に学生に向けて、「構造設計の分野でも楽しみながら建物に関わる人が増えて欲しい」というエールが贈られた。なお、開催にあたり名城大学理工後援会にもご援助頂いた。

■主旨：本講演会では、日本建築学会(AIJ)・東海支部と文部科学省「21世紀型自然災害のリスク軽減に関するプロジェクト(NDRR;名城大学)」の共催で、RCと木質の空間構造に関する最新の話題提供を行います。NDRRは文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として採択され、現在4年目後半を迎え、今回の講演会に関連する「大空間構造物の耐震安全性評価による震災リスクの軽減」のサブテーマを含む5つのサブテーマで研究が進められています。講演会では、コンクリート系と木質系の空間構造の将来像を探るため、最新の事例紹介とディスカッションにより、構造技術の現状や将来展望の観点から情報交換をする。

■講演内容：

- ・最新のコンクリート系シェルの構造設計と施工事例  
その1、「豊島美術館」小松 宏年(小松宏年構造設計事務所)  
その2、「MIHO 美学院中等教育学校ーチャペル」 高見澤 孝志(ハシゴタカ建築設計事務所)
- ・最新の木質系空間構造の構造設計と施工事例  
その1、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」 金田 充弘(アラップ)、岩本 聡(戸田建設)  
その2、「ATグループ本社 北館」 北川 昌尚(竹中工務店名古屋支店設計部)
- ・デジタルファブリケーションの実際と建築への応用可能性 横山 将基(TAB), 山下 健 (TAB)



講演会の様子



ミニPDの様子



市之瀬先生



武藤先生



小松先生



高見澤先生



金田先生



岩本先生



北川先生



横山先生, 山下先生